

みなみみのわ 議会だより

No. **149**
2025.5.1
発行



おいしく！たのしく！

こども食堂
『ここカフェ』



『楽集会』による宝投げ



若者議会 2024 !

一般質問動画 配信中

QRコードから各議員の一般質問動画が
観られます。

インターネット村ホームページ→村議会→
本会議録画中継→定例会



若者議会2024！初開催	P2・3
3月定例会・予算審査	P4・5
議会のことば・お知らせ	P6
一般質問	P7～13
議会活動（要望書提出・視察 など）	P14～17
きらきら村の仲間たち（楽集会・ここから）	P18・19
モニターの声	P20

若者議会2024！



高橋勇貴 議員

問 大芝高原の森林計画の策定は村や協議会が中心となって行われており、若い世代がどう関わればよいかかわからないことに問題があるのではないかと。大芝高原内の学校林指定区域を信大農学部や上農高校に拡大してはどうか。多様な年代のニーズを取り込んだ大芝高原の運営が可能になり、森林整備に関わるコストを抑えるメリットがある。

村長 森林づくり実施計画には、森に関する情報の一元化やSNSによる情報発信の強化・統合、地域住民参加の中心的組織の立ち上げ検討が明記されており、その取り組みで住民参加のプラットフォームを整え、森づくりに参加できる環境を作っていく。学校林指定区域を拡大して複数の管理主体が森づくりをするのではなく、森林整備や森林利活用の検討、合意形成の場に若者を含めた多様な主体が参加できるしくみにしたい。

問 村では2050年までに温室効果ガス排出量を実質ゼロにする「南箕輪村気候非常事態宣言」を表明した一方、信大農学部の学生8割以上が自動車や原動機付自転車を購入し、それらがなくと生活しづらい現状。この現状を改善することは、温暖化対策になるだけでなく学生を支えることにもなると思うが、取り組みを行ったことは

あるか。

村長 過去に信大が主体となり、通学に自動車の使用を極力避けるよう呼びかけを行ったことがあると聞いたが、現在は行っていないとのこと。村では信大生に限定をして、自動車保有数を減らすための啓発を行ったことはない。

問 気候非常事態宣言を表明している以上、改善すべき問題として今後どのように取り組むか。

村長 自動車から排出される温室効果ガスの量を減らす取り組みとして推進する。エコドライブの啓発、電気自動車など次世代自動車の導入促進、充電ステーション設置を予定。

問 夜間の交通安全対策として、道路や標識などに塗布するナイトコンシェルジュという蓄光塗料の導入を提案する。

村長 ナイトコンシェルジュは、歩行者を誘導する目的の案内標識としては効果があるようだ。一方、時間の経過とともに、暗闇に慣れた目であっても確認が困難であったという評価もされており、照明灯の代替品にはなり得ない点は前提条件となる。今後さまざまな取り組み事例が出てきた際には、活用していけるよう前向きに考えている。

☆感想

「今回の若者議会の質問作成を通して、村政について調べて理解を深めることができました。議会当日は、答弁者とのやり取りの中でより良い村政につながる提言ができたのではないかと考えております。引き続き村に積極的に関わっていききたいと思います。このような貴重な機会をいただきありがとうございます」



田中真吾 議員

問 村への意見・要望など、住民のリアルな声を届ける方法があるか。村公式LINEから、気軽に意見・要望を送れるように設定しては。

村長 役場玄関と村図書館内に「村民の声の箱」を設置しており、意見・要望を書いて投函できる。封書やはがきでも受け付けている。近年は「お出かけ村長室」や議会による「村民の声を聴く会」として公民館に出張し、声を聴く機会を設けている。地区計画の整備要望に限るが、区や組を通す方法もある。ごみの不法投棄や道路の陥没等は村公式LINEで報告できるが、自由な形でコミュニケーションができる体制にはなっていない。

問 過去にどのくらいの意見や要望が集まり、実際に反映された実績があるか。

村長 過去5年間で「村民の声の箱」に届いた意見82件・メール56件・郵送28件で、内訳は要望約100件・苦情40件・提案20件となっている。村政に反映された実績としては、コロナ禍における学生への支援、公共施設のトイレ改修、大芝高原の遊具修繕など多々ある。

問 区・組への未加入世帯に対する村長の率直な考えは。

村長 人と人とのつながりが大切であり、その中心的役割を担う自治会には多く加入してほしい。未加入へ対応としては、新しい人の加入促進と脱退対策が重要になる。加入促進は時代に合った変革が条件であり、ごみ収集立会いと広報紙等の配布を村が実施することに切り替えたのはその一環。

近年、投票率低下が懸念される中、村政や議会への関心を高めるために、初めて若者議会を企画しました。1月24日、「若者議会2024！」を初開催し、3人が議員として一般質問に臨みました。貴重な意見や提案が今後の村政運営に生かされることを期待するとともに、幅広い年代が村政に関わるきっかけになることを願っています。

点でそれは描いていない。PTAの負担軽減に向けて組織や活動内容の見直しなど、柔軟なあり方を各校PTAで描いている。

☆感想

「もともと行政や議会に良い印象はなく、それは何も変わらなかった。だが、議員を選び、この地域に住むと決めたのは自分たち自身。①もっと地域の行政や議会に関心を持つこと②熱い思いを持つ人に1票を投じる③若い世代が行動しなければ何も変わらない。ただ、それらを再認識したが、他に得たものはひとつもなかった」



清水伸一 議員

問 経済的な負担軽減として、箕輪町、伊那市で取り入れられている「乳幼児のおむつ購入費助成金給付事業」を検討しては。

村長 物価高騰により経済的負担は増加しており、子育て世代にも大きな問題。そのため村としては、学校給食費上昇抑制のための補助や、妊婦に対し出産するまで継続的に米を届ける事業、ファミリーサポート補助金の創設など行ってきた。この村は近隣自治体と比較して子どもの割合が多く、子どもへの施策を展開すると予算が他の自治体よりかかり、判断することに勇気が必要。乳幼児のおむつ購入費への補助については、担当課と協議した結果、現在必要性を感じているとのことなので、金額・支給方法について具体的に検討を進めていきたい。

問 村の情報や活動の紹介は、大芝高原のInstagramや地域おこ

(お詫び)
開催周知など情報が不足していましたが、お詫びいたします。



し協力隊のInstagramなどがあると認知している。若者や子育て世代の多くは、そういったSNSの情報で村のことを知るという印象がある。村のホームページや広報誌だけでなく、全国に発信できる有効的なツールとして、もっとSNSで情報発信できないか。

村長 村関係のSNSで定期的な情報発信を行い広報の役割を果たしているのは、大芝高原のInstagramとFacebook、観光協会のInstagramではないかと思う。農業関係の地域おこし協力隊がInstagramを展開しており、その発展にも期待している。Xでは村のキャラクターまっくんも定期的に発信している。SNSの運用は大変だが、継続することで発信力が徐々に高まることは実感できる。これらのSNSアカウントを村のウェブサイトでわかりやすくすることは大切な視点であり、SNSを運営している側への支援にも直接つながるので、できることは積極的に対応するよう、担当課である総務課に指示したい。

☆感想

「日々の生活で直面する悩みや思いを、村へ発言できたことは村のためになったと感じています。また、他の方の質疑を聞くことで、新たに村のことが知れて勉強にもなりました。若者会議の準備運営に携わった方々にも感謝申し上げます。今後も若者会議が盛り上がり、若い世代の声で村がさらに豊かになっていくことをお祈り申し上げます」

QRコードから動画を観てね



過去最大規模の骨格予算※成立！

2月27日から3月14日までの日程で開かれた3月定例会は、令和7年度予算を含む24議案はすべて原案のとおり可決、承認となり、陳情1件が採択されました。令和7年度予算は村長選挙を控え骨格予算※ですが、物価高騰などの影響を受け過去最大となりました。



	件名(議案名はわかりやすく簡略表記しています)	賛成	反対	議決結果
条例関係	村一般職の職員の給与に関する条例等の一部を改正する条例 ▶ 人事院勧告に伴う常勤一般職等の給与改定	9	0	可決
	村非常勤消防団員に係る退職報償金の支給に関する条例の一部を改正する条例 ▶ 勤務年数区分に「35年以上」を追加	9	0	可決
	村消防団員等公務災害補償条例の一部を改正する条例 ▶ 損害補償に係る補償基礎額、扶養に係る補償基礎額加算額の改定	9	0	可決
	村福祉医療費給付金条例の一部を改正する条例 ▶ 法律施行令の一部改正に伴う所要の改正	9	0	可決
	村家庭的保育事業等の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例 ▶ 保育士配置基準等の改正	9	0	可決
	村個人番号の利用及び特定個人情報提供に関する条例の一部を改正する条例 ▶ マイナンバー法の改正に伴う所要の改正	9	0	可決
	村会計年度任用職員の給与及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例 ▶ 人事院勧告に伴う村会計年度任用職員の期末勤勉手当の改定	9	0	可決
	刑法等の一部を改正する法律の施行に伴う関係条例の整理に関する条例 ▶ 刑法等の一部改正(拘禁刑の創設など)に伴う村条例の改正	9	0	可決
令和6年度補正予算関係	一般会計補正予算(第10号)	8	0	可決
	介護保険事業特別会計補正予算(第3号)	9	0	可決
	国民健康保険事業特別会計補正予算(第2号)	9	0	可決
	後期高齢者医療特別会計補正予算(第2号)	9	0	可決
	水道事業会計補正予算(第6号)	9	0	可決
	下水道事業会計補正予算(第4号)	9	0	可決
令和7年度予算関係	一般会計予算	9	0	可決
	介護保険事業特別会計予算	9	0	可決
	国民健康保険事業特別会計予算	9	0	可決
	後期高齢者医療特別会計予算	9	0	可決
	水道事業会計予算	9	0	可決
	下水道事業会計予算	9	0	可決
議会提案関係	村議会の個人情報の保護に関する条例の一部を改正する条例 ▶ マイナンバー法の改正に伴う所要の改正	9	0	可決
	放課後児童クラブにおける長期休業中の食事提供等調査特別委員会の設置に関する決議 ● 決議に反対：唐澤 福祉教育常任委員会で調査すべきであり、特別委員会設置は拙速すぎる。	8	1 (唐澤)	可決

	件名(議案名はわかりやすく簡略表記しています)	賛成	反対	議決結果
その他	伊那地域定住自立圏形成に関する協定の変更について ▶ 伊那市との協定に「公共施設の集約化・共同利用」「事務の共同実施」を追加	9	0	可決
	村公の施設の指定管理の指定について ▶ フォレスト大芝の指定管理者を村開発公社に指定	9	0	可決
	村道路線重複認定の承諾について ▶ 大芝高原内の村道29号線を伊那市と重複認定区間とする	9	0	可決
	工事の変更請負契約の締結について ▶ 南箕輪小学校北校舎改修工事請負費の減額による変更請負契約の締結	9	0	可決
	人権擁護委員候補者の推薦につき意見を求めることについて ▶ 出来 典子氏の再任	8	0	同意
	最低賃金法の改正と中小企業支援の拡充を求める意見書 ▶ 総務経済常任委員会は不採択 ● 陳情に賛成：三澤 勤労者の3割が最低賃金で働く。最低生計費は全国どこでも変わらないため、全国一律同一労働同一賃金1,500円で暮らしを守る必要がある。	2 (三澤) (山崎)	7	不採択
請願・陳情	持続可能な学校の実現をめざす意見書 ▶ 福祉教育常任委員会は採択	9	0	採択

注)一般会計補正予算(第10号)と人権擁護委員推薦は開会日の即決で、その日の出席議員数は9名(議長は可否同数の場合以外は採決に加わらない)だったため、全会一致が8名となっています。

予算審議中の議員から
村への質問を紹介

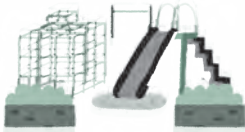
- ◎ 自転車用ヘルメット購入補助の予算が、150万円から40万円に減額となった理由は？
A 中学3年生に加えて高校生も対象としていたが、県の補助がR6年度で終了することから、中学3年生のみを対象とする。
- ◎ 猫去勢手術補助金の詳細は？
A 村内の飼い主不在猫や地域猫、多頭飼い猫が対象で、1頭3,000円で年間50頭分を見込む。
- ◎ 担い手農業者機械設備導入補助金とは？
A 初めて設置した補助金で、農機具等の購入に最大30万円を補助する。

令和7年度予算 主な(新)事業内容

小中学生の
学習用端末更新
約1億2700万円



大泉新公園・
村内公園整備
約3900万円



住宅用新エネルギー
施設設置補助金
約700万円



担い手農業者機械
設備導入補助金
300万円



令和7年第1回臨時会(1月23日)

件名(議案名はわかりやすく簡略表記しています)	賛成	反対	議決結果
村一般職の職員の給与に関する条例等の一部を改正する条例 ▶人事院勧告に伴う村一般職等の給与改定	9	0	可決
令和6年度一般会計補正予算(第9号) ▶物価高騰対策重点支援給付金など	9	0	可決
令和6年度水道事業会計補正予算(第5号)	9	0	可決
令和6年度下水道事業会計補正予算(第3号)	9	0	可決

議会のことば



「骨格予算」と「肉付け予算」(4・5ページの※注釈)
骨格予算と肉付け予算って？

「骨格予算」は村長選挙やその他の事情で政策的な判断が難しい場合に、人件費など基本的な経費を計上した予算。村長が決定するなど事由が解消された後、補正予算で政策的な支出を計上していくのが「肉付け予算」と呼ばれる。

村民の声を聴く会

R7年度も5月から8月にかけて
村内12地区に議員5人ずつ出向き、
みなさまのご意見をお聞きします。
開催日時は、区の回覧や
議会ホームページでお知らせします。
事前申し込み不要！
ご参加お待ちしております！

今年度も
やります！



〈議会を傍聴 しませんか？〉

どなたでも傍聴できます

一次回定例会は—
6月2日(月)から開催予定です。
決定日時はホームページでご確認ください。

お問い合わせは
議会事務局(72-2361)まで

問 令和7年度骨格予算重点項目は

答 改修事業や物価高騰対策の予算を計上(村長)



都志 今朝一

問 R7年度骨格予算重点項目は何か。

村長 経常経費と継続事業を中心とした予算編成であり、安全・安心に関わる改修事業や物価高騰対策に重点を置いている。

問 健全財政維持の施策は何か。

村長 村税など歳入の伸びが見込みづらい状況と、物価高騰などによる義務的経費の増が続く。投資的経費を確保していくために、歳入・歳出両面から見直しを行い、一定程度の投資経費を確保できる財政基盤を築くことが必要。行政の効率化も進め、財源確保に取り組む。

村政運営について

問 南箕輪小学校長寿命化工事、公園整備などハード事業が続く。いつまでも幸せに暮らせる村づくりへの政策は。

村長 ハード事業では、南箕輪小学校、村役場など既存の施設維持に加え、環境対策として断熱改修にも取り組む必要があり、これらは粛々と進める。政策としては、①人と人、人と自然とのつながりを大切にする②子育て支援と働きやすい環境づくり③熟年者や多様化する支援を求める声にしていねいに対応④防災拠点整備、安全安心を確保⑤地球温暖化対策とデジタル化の推進⑥健全財政と負担を増やさない行政運営、これら6つを柱とする。



改修を予定している役場庁舎

下水道安全対策について

問 H3年の村公共下水道供用開始から33年経過。経年劣化への安全対策は。

村長 劣化が懸念されるヒューム管は約5.9kmで、R元年度から劣化状況調査を実施。今後も計画的に調査・点検を行い、長寿命化を図る。

村の安全対策について

問 消防団員確保への対策は。

村長 消防団員が消防団に関するチラシを作成し、その地区に全戸配布したり、消防団公式ウェブサイトを通じて活動のようすを伝えている。消防団だけでは限界があるため、毎年、区長会を通じて団員確保につながる支援をお願いしている。R6年3月には機能別団員設置要綱を消防委員会で協議し、新たに制定した。将来的にバイク隊やドローン隊など、役割に特化した部隊の設置ができるようにした。

学校生活について

問 村内小中学校のいじめの現状と対策は。

教育長 R6年度の状況は、南箕輪小学校151件、南部小40件、南箕輪中学校42件。対策としては、「村いじめ防止基本方針」の未然防止に関して、道徳の時間を中心に学校生活全般を通して「いじめを許さない心」を醸成している。いじめへの対応としては、関係機関・関係者によるチーム支援で対応できるよう、各校支援体制を整え機能している。いじめが主たる原因で不登校になっている児童生徒は、現在のところいない。いじめを含め、子どもたちが不安定になることがないように、学校が安心して生活・学習できる場所になるよう、今後も努力していく。



笹沼 美保

問 クラウドファンディング型ふるさと納税で郷土館建設を

答 現時点では難しさがある(教育長)

問 クラウドファンディング型ふるさと納税(※)を活用して、郷土館建設の一助とするための寄付を募っては。

教育長 今のところ新たに郷土館を建設する方針を村・教育委員会で示していないため、建設場所の選定や規模など検討する状況に至っていない。現時点でこの制度を活用することは難しさがある。

村長 郷土館建設に関する考えは、R3年度に文化財専門委員と協議を重ねた当時と変わっていない。まずは学芸員の確保、文化財の整理・可視化など、段階を踏まえて検討したい。学芸員確保のための処遇改善、文化財整理のためのシステムに予算を計上した。

問 学芸員の確保に施策はあるか。

教育長 R7年度の会計年度任用職員募集で、初めて学芸員を募集したところ。今後、ハローワークへの求人情報掲載も行う予定。新たな人材発掘につながることを期待している。

※クラウドファンディング型ふるさと納税…地方自治体の課題解決のために行う事業に対して寄附を募るしくみ。寄附金の使い道が明確に示され、共感を寄せた事業に対して寄附をすることで応援の意思を示すことができる。



虫干しされている村所有の掛け軸(大芝荘)

誰もが利用しやすい図書館に

問 誰もが学び続ける機会を増やすために、大活字本や点字本などをP Rし、読書のバリアフリーを推進しては。

教育長 村図書館では定期的には大活字本を購入しており、現在419冊所蔵。館内中央部に配架場所を移して利用しやすくした。点字本は絵本や冊子など30冊ほどを世代間交流室に配架しているが、今後はP Rも含め探しやすい場所を考える。紙の本だけでなく電子図書の貸し出しサービスや、視覚障がい者のための音声による読書「アクセシブルライブラリー」も利用できるため、必要な人に情報が届くよう周知を図り、読書のバリアフリーを進めていきたい。

問 スマートフォン対応貸し出しサービスを導入しては。

教育長 スマートフォンに図書館利用カードのバーコードを表示させて、利用カードの代わりとして使えるサービスで、始める図書館が増えている。村図書館でも先行している図書館の情報を得ながら導入していきたい。

多様な学びを応援する村に

問 「信州型フリースクール認証制度」の認証を受けているフリースクールの利用料に対する助成金制度を創設しては。

教育長 本村には学ぶ支援型のフリースクールが1か所あり、R6年度は小学生1人、中学生1人が活用している。フリースクールの利用は市町村を越えている状況があり、村内の小中学生の利用状況や他市町村の助成状況、家庭の経済状況などについて整えていく必要がある。



問 中学部活地域展開の検討結果は

答 お金の流れ、利用料、補助内容を指示した(村長)



百瀬 輝和

問 村のスポーツ推進計画、健全育成の観点から質問する。休日地域クラブの検討はいつから始めたか。

教育長 R3年6月と8月に地域部活推進事業に関する情報交換会を行い、その後、地域協議会を立ち上げるための小委員会をR4年9月とR5年1月に実施し、先進事例の検討を進め、村に合った構想を作ってきた。R5年2月に休日の部活動の地域展開の地域部活動協議会を立ち上げさまざまな課題を約2年間検討をしている。

問 NPO法人わくわくクラブとの連携内容は。

教育長 R6年3月の理事会で教育委員会の基本的な考えを示した。休日の地域クラブがわくわくクラブに登録して、わくわくクラブが事務局を担うことが、スポーツ振興に良いことと考える。業務内容は5つで、入会手続き、保険加入、施設の予約、クラブへの補助金、指導者研修会である。課題等は教育委員会とわくわくクラブが協議して解決していく。

問 協議の中で出された課題はどんなものか。

教育長 大きな課題は、指導者の確保、指導者への謝金も合わせた運営のための財源、全体の事務局の体制整備の3点であった。現在、指導者は全クラブで確保できている。指導者の謝金は村からの補助と会費で自主運営をしていく。保険、施設整備、施設利用料は、わくわくクラブが担い、指導者謝金の支払いと部活動との連携、相談窓口は、R7年5月に立ち上がる中学校スポーツ文化活動運営協議会が担っていく。

問 平日部活動と休日地域クラブの取り組みは。

教育長 平日は学校の部活動として放課後、

週4日間、1日約2時間行う。休日は土曜日か日曜日どちらか3時間行い、週11時間を基本として行う。中体連やコンクールの大会参加は当面中学校の部活動で参加していく。他の地域大会や練習試合は休日地域クラブで参加していく。平日の部活動顧問と休日地域クラブの指導者の連携が重要と考えている。

問 検討してきた結果は。

村長 予算の計上は首長が権限を持っていることから、3点指示した。①教育委員会の案では、お金の流れは、わくわくクラブを経由して各クラブに送るといったものだった。できたばかりの任意団体であるクラブに村の公金が直接いくことは適切ではなく、管理についても不安である。問題が起きた際は村の責任となる。また指導者謝金の源泉徴収税や納税の計算もある。②施設の利用料について、教育委員会の案では休日地域クラブと一般のクラブと同じ扱いで考えており、その利用料を村が補助する形であった。スポーツ庁からは、今後、部活動から派生したクラブの考え方は認定をして、区別されるようになる。③補助金の内容が小学生クラブにまで行うようになっていたが、わくわくクラブの現場責任者から訴えがあり、小学生クラブへの補助金を出すことは、適当でないとの判断とした。(ここで時間切れのため6月定例会に続く)



休日地域クラブ



三澤 澄子

問 大規模災害時の福祉避難所開設は

答 村内10か所指定し受入れ体制を整備する(村長)



問 郵便配達車両による水道検針でコスト削減を

答 良いアイデアだが、国の動向をみたい(村長)



唐澤 由江

問 大規模災害時第2庁舎となる「森の学び舎」の電源。水源の確保、トイレ等の整備状況は。

村長 B C P (事業継続計画)により通信機器、情報システム、水、食糧、トイレ等最低限の整備をしている。電気は大型発電機と電源車両で対応する。太陽光発電と蓄電池については道の駅 B C P の中で設置可能性を検討する。

問 線状降水帯により、0.5～3mの浸水被害が予想されるコンソール大芝の緊急避難場所を森の学び舎に指定可能か。

村長 森の学び舎は指定避難所にはならない。上伊那福祉協会と広域的連携を視野に協議している。災害時役場庁舎が問題ない場合は、介護度の高い入所者が多いコンソール大芝の安全確保に努める。ケースバイケースだ。

問 指定福祉避難所の速やかな開設のために必要な整備、備蓄はされているか。点検と訓練は。

村長 10か所を指定している福祉避難所は配慮を要する人の介護ベット、スロープ、バリアフリートイレ等大枠で把握している。受入れ人数設備、備蓄等調査し、実例想定した訓練をしていく。

問 能登町「春蘭の里」は震災時、水源、電源、合併浄化槽などライフラインがすべて稼働し自立の村の教訓を得た。村の震災時各地区避難所の整備、防災用品、食料等の備蓄状況は。

村長 村地震防災計画は、発災後3日間は給水車に対応。各家庭では常時1日当たり1人20ℓの水確保をお願いしている。村内6か所の水源池横井戸も使う。電源確保の太陽光発電と蓄電池の備えは重要。R7年度予算で補助金の活用、コスト面等最適な方法を計画策定する。毎年、防災用品、食糧の備蓄、ベット等 県のアクションプランに合わせ充実していく。情報共

有しながら広報活動もして、自助、共助につながる取り組みを進める。



安心の福祉避難所

持続可能な自治会運営について

問 持続可能な自治会検討ガイドラインがまとまる。区の負担軽減に向けて集落支援員を村から派遣する。その働き方や人選は。

村長 集落支援員は区の維持活性化のため地域の実情に詳しい人がサポートする。区長は1年交代だが支援員は複数年に渡って雇用し、引き継ぎをスムーズにし負担軽減につながる。地区計画書類作成、公民館事業で村と区をつなぐ。区と協議して柔軟に働き方、人選に取り組む。

問 村から区への委員等見直しが進む。防犯や健康推進が弱まらないか。委託費の変化は。

村長 R7年から交通部、防犯部、健康部については村が招集する部長会を廃止する。防犯、交通安全は、それぞれ村防犯協会、村交通安全協会と連携。すこやか係が担っていた健康部は、村全体で健康づくりを呼びかける。委託費は広報紙配布、資源ごみ立ち合がシルバー委託になり、R7年から370万円を計上。R6年度801万円予算が差引き431万円減額になる。行政事務費均等割5万円と世帯割650円、ごみ処理世帯割90円は継続する。

問 郵便配達車両に無線機を搭載し、各戸に設置されたスマートメーターから水道使用量などの検針データを自動的に取得するシステムの実証事業が総務省により行われた。コスト削減と効率化、漏水の早期発見が期待できる。漏水が多発する大泉地区へ導入しては。

村長 良いアイデアだが、国の補助等の動向を見たい。

老朽化した庁舎の改修計画は

問 役場内が手狭だ。機構改革により、こども館に関係部署が移動したが、まだ庁舎は狭い。保健センターも活用し、雑然とした庁内をすっきりできないか。改修時に増築はあるか。

村長 庁舎はS56年建設。当時職員は70人だったが、人口増と業務の多様化により、現在は110人が勤務。健康医療課はデータ活用や保健指導など、役場庁舎での勤務が望ましい。改修はR8年に設計、R9年に屋根や外壁塗装、断熱工事の計画で増築は難しい。

蓄電池システムを導入しては

問 EV(電気自動車)などの普及で脱炭素化は進む。電池のリユースやリサイクルが求められている。環境に配慮した持続可能な村づくりのために、太陽光パネルとリユースバッテリー搭載の蓄電池システムの構築を村は考えないか。

村長 村はR2年に「気候非常事態宣言」を表明し、R3年に地球温暖化対策実行計画を策定。2050年にはCO₂ 排出ゼロを目指している。太陽光とEVバッテリーを再製品化した蓄電池を再利用し災害や豪雨に備えたい。R7年度当初予算に盛り込み推進していく。

E Vの導入は

問 公用車をEVに切り替えて、地域の脱炭素化の先駆けにしては。

村長 村はEV、ハイブリッド車合わせて8台を所有している。R12年度までに、すべてEV車に変える。

公務員離れの対策は

問 育休退園廃止対策として、保育士資格のない人へ講習、研修で人材確保を。

村長 保育士120人、補助員28人が正規職員同様に研修を受け、資格のない人でも働きやすい環境を整えている。

問 新卒者が民間企業を選び、公務員離れが進んでいる。対策は。

村長 任期満了となる地域おこし協力隊には、40歳まで門戸を広げ、正規職員になることができる。男女共同参画・多文化共生を担当していた隊員1人がR7年6月から会計年度任用職員になる予定。森林づくり総合管理を担っていた隊員は、R7年度から大芝高原整備事業業務の委託契約を結び、引き続き今後も村のために尽力してもらう。



地域おこし協力隊 活動報告会



西森 一博

問 利便性の向上になる「書かない窓口」の導入予定は

答 「書かない窓口」の導入を進める意向(村長)



問 基金運用でグリーンボンドを購入しては

答 まずは、国債で考えている(村長)



太田 篤己

自治会検討委員会について

問 2年間で行政協力業務の負担軽減やガイドライン作成の結果を出した。持続可能な自治会検討委員会に対する村長としての評価を聞きたい。

村長 自治会検討委員会の中でさまざまな課題を洗い出し、可視化できたことは大変有益であり、行政協力業務の削減により、区役員の負担軽減が一定程度実現できたことに一定の評価をしている。また、委員会のようすを動画で公表したこと、将来のために記録が残せた点は大きな価値があったと思う。

問 10年後も自治会が存続できるのか、解散した場合や自治会の必要性など根本的な検討ができてなかったと思われる。自治会が本当に必要か、自治会が無くなった場合に生じる村民や村の負担などの想定を含めた検討も、今後必要ではないか。

村長 第5次総合計画では協働による村づくりを推進している。村と地域が協働していくために自治会の存続は必須であり、持続可能なものとなるよう、現段階で考えられることで話し合いを重ねてきた。この2年間では自治会が無くなった場合の議論など、深い話しはできてないが、若い世代から質問に関連した意見があることも認識している。人と人とのつながりがある地域を維持していきたいという考えで、持続可能な自治会を模索することから進めるべきだと考えている。R6年に地方自治法の一部改正で指定地域共同活動団体制度が創設された。地域で活動する団体を公に指定することで、自治会と力を合わせて地域コミュニティを支える体制づくりができるようになった。今後はこの制度の利用を含めて多様な地域づくりの研究も進めたい。



手続きの軽減が期待される書かない窓口

集落支援員について

問 R7年度から区を支援するために集落支援員が派遣される計画だが、村から派遣しても区の事情を知らなければ、区の役員が困惑することが考えられる。集落支援員の募集を区が行って、村が報酬等を出す考えで良いか。

村長 地区の実情に詳しく、複数年働ける人を想定しており、個人に委託する形であれば柔軟に働けると思われる。人選や募集は各区と連携していねいに進めたい。また委託費用について区の負担は発生しない。

問 R5年度末の一般会計基金合計残高は37億円で、この運用益は財政の安定に必要な自主財源のひとつである。現在の運用方法と運用実績は。

村長 今までは定期預金での運用を行っている。運用実績は、R3年度141万円、R4年度165万円、R5年度224万円、R6年度見込みは432万円である。

問 健全財政維持のための緊縮財政は、行政サービスの低下を招く場合もある。自主財源確保による歳入増加のためには、高利回りが期待できる債券運用は必要ではないか。資金運用によるSDGsの取り組みとしてグリーンボンド(環境保全・改善のために企業や自治体が発行する債券)の購入を提案する。

村長 これからは債券運用をやっていかねばならないと考えている。長野県では、2050年度の二酸化炭素排出量実質ゼロの達成と自然災害による被害軽減に向けた取り組みとしてグリーンボンドを発行しており、これを購入することは、県の取り組みに賛同し貢献できるものであるが、リスクがないわけではない。基金の安全かつ確実な運用を行うためには、元本割れのリスクがほとんどない国債での運用を考えている。

国内におけるグリーンボンドの発行・投資への期待

国内において、グリーンボンドの発行件数は増加しています。2020年には年間発行総額が1兆円を突破しました。グリーンボンドを通じて、さらに多くの民間資金をグリーンプロジェクトへ誘導していくことが、「カーボンプリネードゼロ」や「SDGs」の達成には不可欠となります。

国内企業等によるグリーンボンドの発行実績



環境省「グリーンファイナンスポータル」より

伊那地域定住自立圏※について

問 本村は伊那地域定住自立圏を形成する伊那市、箕輪町と連携し、共生ビジョンに定めた事業を推進している。共生ビジョンには3つの政策分野が示されているが、本村の役割や、連携・協力体制について現在の状況、課題は何か。

村長 伊那地域定住自立圏では伊那市が中心市として事業を進めており、本村は箕輪町と共にその事業内容を検討している。3つの政策分野における事業は、①生活機能の強化／産業振興としてふるさと融資や助成制度の周知と利用促進。福祉では子育て拠点施設の相互利用など。②結びつきやネットワークの強化／公共交通として伊那本線バス、グループタクシーなど、移住定住振興として空き家バンクの運営など。③圏域マネジメント能力の強化／人材育成交流促進として市町村合同の研修実施などがある。課題は財政措置に上限があり、新たな事業の追加や拡充ができていないこと。

問 目まぐるしく変化する日本国内情勢、世界情勢を考えれば、定住自立圏の取り組みには、機動性や財政面において困難な状況が推察されるが、村長の考え方と今後の対応は。

村長 圏域として人口減少が進む中、伊那定住自立圏で各事業を進めていくことが、効率的、効果的であり、重要であると捉えている。機動性に難はあるが、3市町村の関係は非常に良好であり、この関係を維持しつつ連携をとって各事業を進めていきたい。

※定住自立圏とは中心市と近隣市町村が相互に役割分担し、圏域全体で必要な生活機能を確保し、定住の受け皿を形成するもの

総務経済常任委員会

まっくんファームとの懇談会

2/14

農家の高齢化や人手不足が深刻化する中、「まっくんファーム」の理事から運営に対する課題を聞いた。作業依頼が増加している一方で、作業者不足により対応が難しくなっている現状や物価高騰などによる利益圧迫など、多くの課題や意見が出された。

まっくんファームの持続可能な運営に向けた要望書

全国的に農家の高齢化や人手不足、農地集約などの課題が深刻化する中、農業を守るため「農事組合法人まっくんファーム」の理事との懇談会を開催した。

懇談会では、農家からの作業依頼が増加している一方で、作業者の不足や高齢化により対応が難しくなっている現状が指摘された。また、物価の高騰やインボイス制度による利益圧迫、分散する圃場による作業効率の低下、事務・労務管理の負担など、多くの課題や意見が挙げられた。農業の重要な役割を担う「まっくんファーム」が今後も持続可能な形で運営されるために、以下のとおり要望する。

記

1. 作業者の入手不足に対応するため、農業者にとらわれず未経験者の募集や作業指導会の実施など、育成体制の支援を検討されたい。
2. 経営を安定・持続させるため、運営補助金の支給を考慮されたい。
3. 作業効率向上のため、圃場の集約・面積拡大の推進を検討されたい。
4. 将来の農業を守るため、村主導で農業施策と地域計画を強力に推進されたい。

以上



まっくんファーム理事との懇談会



総務経済常任委員会

マレットゴルフ場の整備等に関する要望書提出

3/4



マレットゴルフ関係者との懇談会



大芝高原マレットゴルフ場の整備等に関する要望書

村民から大芝高原マレットゴルフ場の整備が不十分であるとの声があり、総務経済常任委員会では、村内のマレットゴルフ団体代表者と村開発公社より、課題や意見を聞き、現場を視察した。プレーする際の安全性確保やコース環境、料金に対する問題が提示された。これらの課題を踏まえ、魅力的で安全かつ使いやすい大芝高原マレットゴルフ場を実現するため、検討と対応を要望する。

記

1. コースにある根の露出や枝の落下など、危険箇所の早急な除去・対応をされたい。
2. 多くの人に気軽に楽しんでもらえるよう、利用料の見直しを検討されたい。
3. 魅力的で安全かつ使いやすいマレットゴルフ場にするため、有識者を交えて整備計画を作成されたい。
4. コース整備や監視業務に、地域住民の協力を得られる仕組みを検討されたい。
5. 健康福祉増進のために、村民の利用を促進されたい。

以上

議会運営委員会視察

1/16・17

BCP（業務継続計画）と政治倫理条例の調査研究のため、栃木県的那須町議会を視察した。それぞれの策定経緯や運用について質問をし、また、議員定数や陳情の取り扱いについても意見交換することができた。今後も研究を重ね、制定に向けて検討したい。



那須町議会議場にて

福祉教育常任委員会視察

2/5~7

<バイオエネルギーセンター（東京都町田市）> →

町田市では2020年に乾式メタン発酵による処理施設としてバイオエネルギーセンターが完成。地域や地球環境を守るために「ゴミになるものを作らない、燃やさない、埋め立てない」を基本理念とし、生ゴミ減量の取り組みを行っている。生ゴミ処理機や堆肥化容器を活用した家庭ゴミの自家処理を推進し、それでも出てしまう生ゴミを資源化するために、バイオガス化施設を導入した。社会生活の中で出されるゴミを資源に変えるしくみは、将来に向けて地球環境を守る大切な取り組みであり、最後の灰までも再利用してエコセメントに変える設備には驚かされた。視察時には、バイオガス化施設が火災により稼働しておらず、見学できなかったことは残念であった。



<特定非営利活動法人一粒舎（千葉県木更津市）> →

一粒舎は就労継続支援B型事業所で、ブルーベリー栽培や加工品販売、観光農園を行い、利用者の工賃を上げる努力をしていた。利用者と職員が楽しみながら地域に貢献している取り組みは参考になった。

<社会福祉法人土穂会（千葉県いすみ市）> →

土穂会はグループホームを有する多機能型事業所で、地域の協力を得ながら千葉県特産の菜花栽培に取り組んでいた。5年で出荷量が倍以上になり、企業と連携した取り組みを行うなど、地域に根差した農福連携が参考になった。

広報モニターとの懇談会

3/17

広報委員会は、主に議会だよりに対する意見や感想をお願いしている広報モニターとの懇談会を実施し、ざっくばらんな意見交換を行った。「わかりにくい言葉の解説をもっと入れてほしい」「シニア交流会の紹介もしてほしい」など今後の参考になる要望もあり、有意義な懇談会となった。



大芝の湯・大芝荘視察

3/19

大芝の湯リニューアル工事の設計案が提示されたことから、議員全員で大芝の湯を視察した。設計案には修正が必要であると判断し、視察後に議会としての意見をまとめ、村側に申し入れた。また、大芝荘で行われている、村が所蔵する掛け軸の虫干しを視察し、文化財専門委員の説明を受けた。



全国町村議会表彰受賞

2/5

南箕輪村議会は「政策づくりと監視機能を発揮」、「住民に開かれた議会」、「議員のなり手不足対策」、「地方議会・地域活性化のための取り組み」について評価され、全国町村議会表彰を受けました。R6年度表彰は、3議会に町村議会特別表彰、20議会に町村議会表彰が贈られ、南箕輪村議会は長野県唯一の受賞となりました。今後も議員一同、より良い村づくりに尽力してまいります。



きらきら村の仲間たち

今回は、南原コミュニティセンターで活動する『楽集会』と『ここから』にスポットを当て、その中心となる3名にインタビュー！
合同で開催したイベントに参加してきました！



『楽集会』代表
えちこうえき
越後幸益さん
(南原在住)

●『楽集会』って？

多くの方からの「自由に集まれる場所があったらいいね」の声に応えるべく、地区公民館オープンのためのボランティアの会を結成しました。現在のメンバーは28名。構成は老若男女30代～80代の前向きな混成グループです。毎週土日の午後1時から5時まで、南原コミュニティセンターをオープンしていて、誰でも予約なしで利用でき、出入り自由です。

●活動を楽しんでいる中でのうれしいと感じることは？

何よりも知り合いが増えたことです。大人はもとより、子どもたちともたくさん顔見知りになりました。それと、地域の他団体との交流、支え合いが始まったことです。

●苦労していることは？

高齢者は、ただ公民館をオープンしているだけでは集まってくれないことと、若い人は「楽集会だより」回覧のお知らせを見てくれないことです。

●『楽集会』のこれからをどうしていきたいですか？

まずは活動を継続して、今の子どもたちが大人になり、この活動に参加してもらうところまでつなげたい。そして、区、ここカフェ、地区社協、民生委員、地区PTA、育成会、保育園、小学校、中学校、村、企業、他の活動団体と連携し支え合って、温かい心豊かな地域づくりを目指したい。

●村のみなさんに伝えたいことは？

たくさんの方々から励ましの言葉をいただき、ありがとうございます。人は誰にでも「世のため人のため」の心はあります。一歩踏み出して地域活動に参加しませんか？新しい世界が広がりますよ！

- 趣味 マジック、写真、生き方探求
- 好きな音楽 フォスターの曲、ドボルザークの「新世界」
- 好きなもの 南原四季の風景と地域の子供たち
- 苦手なもの カラオケ
- 座右の銘 いっとうしょうぐう ばんとうしょうこく
一燈照隅 万燈照国



『ここから』代表
ほたかたかし
穂高貴志さん
ほたかゆきえ
穂高幸枝さん
(南原在住)

●『ここから』って？

“「個々のカラー」が集まって「ここから」新しい何かが始まっていく場所”という願いを含め、老若男女問わず多くの人が集まり交流できる場所です。

●『ここカフェ』って？

『ここから』が開くこども食堂の名称を『ここカフェ』と呼びます。

●活動を楽しんでいる中でのうれしいと感じることは？

たくさんの方が集まって、ごはんを楽しそうにおいしそうに食べてくれる姿を見たり、『ここカフェ』メンバー同士が交流しあえる姿を見れたとき。

●苦労していることは？

作り手が不足していること。

●『ここから』のこれからをどうしていきたいですか？

「おいしかった」「たのしかった」「うれしかった」など、子どもたちに肯定的な体験をしてもらえる場にしたいです。

●村のみなさんに伝えたいことは？

自分が親切にしてもらったら、他の人にも親切にする。そんな親切が循環する地域にしたいと思っています。

- 趣味 土いじり(幸枝さん)
- 好きな音楽 ミセスグリーンアップル(幸枝さん)
- 好きなもの 松本山雅(貴志さん)
- 苦手なもの 妻・お金の計算(貴志さん)
- 好きな言葉 「ピンチはチャンス チャンスはピンチ」
「平常心」(貴志さん)

『ここカフェ』 ボランティアさん募集！

詳しくは
『ここから』 代表 穂高さん
TEL090-6739-1245 まで



中学生もカップケーキ作りで
お手伝い♡



みんなの笑顔 ごちそうさま！



広報モニターの声

モニターのみなさんから寄せられた議会だより誌面や議会に対するご意見を参考に、より親しみやすい議会だより、また議会になるよう努力してまいります。

148号(前号)誌面、議会に対するご意見・ご感想

- 横書きは右開き(議会だより・暮らしの便利帳)、縦書きは左開き(村報・はい!!中央病院・他)でファイリングがしにくい。縦書き横書きで読みにくいです。
- 中学生議会について、担当の先生のお話にありましたが、中学生のみなさんが議会で質問するに至るまでの探究活動、その熱意と努力をおおいに称賛したいと思います。将来の村づくりのために、中学生のみなさんの視点や考えが非常に大切です。これからもぜひ、その情熱を持続してほしいと思いました。
- 今回の議会だよりは今までの中で一番よいと思います。我々のつたない意見や提案を形にいただいていることが誌面から理解できて感謝します。
・中学生議会2024!から、疑問(質問)に対してていねいにその場で回答してくれたこと。まだまだ遠い存在である行政を身近に感じることができたことなど、中学生議員の思いが誌面から受け取ることができました。良かったです。
- 中学生のみなさんが、村に対する考えをしっかりと持っていることをとても嬉しく、たのしく思います。観光面をもっと充実させたいという思いが、とても伝わってきました。私もとても強く感じます。なにか特産品をという意見もありましたね。あるのだけれど、村民にも知れわたっていないのでしょうか?南箕輪はあれか!というものがほしいですネ。
- 今回は中学生議会が目をつけた。中学生議会は意義のある企画。各グループで探究活動をして、村を良くするための意見や鋭い質問に感心した。未来に希望がもてた。
- 「村民の声を聴く会」の要望書にまともな意見は4点だけなのではないか?他どのような意見が出ているのか知りたい。この方法が一番いいもの(村民の声を聴くための方法)なのか疑問。
- 回答 「村民の声を聴く会」で出された意見をどのように公表していくか、今後検討していきます。
- 今回は、前回議会のおさらい議題を提示しているような議員も見受けられます。意図的なものなのでしょうか?もう少し違った形のフォローアップが必要では?と思います。
- 「村民の声を聴く会」は参加者が各会場10人前後で、もっと多くの参加があれば良いかなと思います。参加者アンケートの中に「漠然としていて参加しづらい」とあり、デメリットの意見も積極的に掲載しているのは良いですが、何か対応策はあるのでしょうか。また、「村民の声を聴く会」最終日の8月17日からおよそ4か月が経過しています。もう少し早く発行することはできないのでしょうか。要望書に対する結果は、どのような流れでいつわかるのでしょうか。
- 回答 参加者アンケートの意見を参考に、より多くの村民に参加していただけるよう検討します。要望書は、みなさんから寄せられた多くの要望の中から委員長会においてより重要だと思われるものを抜粋し、その後全議員で検討を重ねた経緯があり、提出までに時間を要しました。今後は極力早く提出できるように工夫いたします。また、要望書に対しては、村にその実施や回答の義務はないため、内容によっては時間をかけて議会として注視していく対応となります。
- 選挙の投票率が上伊那で一番低いのは驚きました。課題が多い現代、若者に政治に関心を持ってもらうような学習会等必要なのでは。
- 回答 中学生議会事前学習会(議会だよりNo147に掲載)を毎年行っており、R7年1月に実施した若者議会(議会だよりNo148に掲載)も、若い世代に村政や議会を知ってもらう機会となりました。

村に対するご意見

- 持続可能な自治会の取り組みの試みとして、村は、1)広報配布、2)不燃・資源ごみ収集立ち合い等の外部委託を進めています。これは、区民の負担軽減を目的とした施策かと思われます。これに対し「楽になった」という声がある一方で、区民、組メンバーの中には「声掛けがなくなり、つながりも希薄になり淋しくなった」という声が出ております。これは、南箕輪の都会化・孤立化を招き、『世代を超えて育む本来の持続可能な村づくり、つながりのあるコミュニティ形成』の理念からかけ離れた村へ変容させかねないという懸念は拭えません。やはり持続可能な自治会とは「何か?」を明確にして、そのビジョンに沿った「ぶれない」「日和らない」持続可能な自治会づくりを進めてもらいたいと思います。声掛け、つながり、絆はコミュニティ(自治会)の欠かせない要素であると思います。
- 中学生議会での発言および「南みのわ村〇〇したい」という探究活動のレポートを拝見すると、我々が忘れかけていた「南箕輪村の豊かな自然、豊かな暮らし」に、中学生が深い思いを持っていることが伺える。こういった若者の思いに寄り添った村づくりをしていくべきと考えます。
- 村への要望書[南信工科短大の補助金等]について、村民に対しての補助金等の要望書は賛同いたします。できれば、卒業後に村に残ること(居住地が村であること)を条件に付け加えることも考えてはいかがでしょうか。なお、卒業後に地元へ就職しているとのことですが、地元とは村、上伊那など具体的にどこでしょうか。村に居住してくれる方の割合が分かれば教えていただければと思います。
- 不登校児童への対応は十分と思っているのか?要因は勝手に想像して分析しているものではないか?実際に不登校児童もっているが、アンケートを取られたことは無い。
- 子どもたちの活動スペースがない。今、実際に箕輪・伊那へ行き運動や勉強をしている(みのわベース、公民館など)。体育館も高い。教育長「理解を」と書いてあるが理解できない。理由を知りたい。
- 教育委員会事務局、学校教育係(こども館)、社会教育係(村民センター)、活動推進員(公民館)と3か所に分かれており、諸運営・連絡がスムーズに機能しないのではと危惧します。図書館は31年となりだいぶ手狭となっていることから、それらも考慮した長いスパンでのインフラ整備が必要かと思えます。
- 福祉教育常任委員会で提出された、「障がい者等の大芝の湯家族風呂利用に対する補助を求める要望書」は、細やかに障がい者に寄り添うありがたい要望だと思う。せっかく作られた家族風呂が躊躇なく、多くの人に利用されるよう願います。



↑すべてのモニターの声はこちら



↑議会だより148号



↑若者議会録画

広報委員会委員長 三澤 澄子
副委員長 笹沼 美保
委員 西森 一博
山崎 文直
百瀬 輝和
太田 篤己
唐澤 由江

編集後記

初めて企画した『若者議会』は、若い世代が村政や議会に関心を持つきっかけとしては良い試みでした。周知方法など今後の検討課題もありますが、議会を身近に感じていただく機会として、大切にしていきたいです。『若者議会』の録画をご覧ください、ご意見などお寄せいただければ幸いです。(笹沼美保)